

大分陸上2006大会

「誕生」 車椅子マラソンの発祥の地、大分でまた一つ陸上競技大会が生まれた。2006年8月5日大分市営陸上競技場での大分陸上2006大会である。



この大会は大分の廣道選手が中心になり、多くのボランティアと企業の協力により開催された大会と言えよう。

この大会では、色々なユニークな試みが行われたので紹介しよう。

まず、会場内には、常に軽快なミュージック

が流れ、プロのDJ（ELJIさん）がテンポ良く、プログラム進行や選手の紹介。また、障害者陸上競技の魅力や、レースの特徴を説明したり、レース中も、その迫力や駆け引きを実況したり解説したりと盛り上げていた。そんな熱い雰囲気のおかげなのか、大変暑い気候にもかかわらず、日本記録や各個人の自己記録が更新された。



さらに、競技の間には、ジュニア対象の陸上競技セミナーが開催された。司



会の大島花子さん（坂本九さんの娘さん）が和やかに進行する中、講師の畑中和選手（アテネパラリンピックのマラソンの部金メダリスト）らが、解りやすく指導した。参加のジュニア選手たちは、初めて触れるレース車に興味を持ち、不安ながらもレース車に乗り、こぎ方や走り方を熱心に習っていた。セミナーの最後には、レース車で50m走に挑戦し

た。参加者にとっては、印象深い体験になった事と思う。将来のパラリンピック選手が、この中から出ることを期待したい。

トラック競技のみが実施された大会だったが、西日本を中心に55名の選手が参加した。今後、障害者陸上を愛好している参加者数がさらに増え、大会が継続的に実施されることを切望する。ただ、開催日については、他の競技大会との兼ね合いなど調整



が難しいだろうが、競技をするうえで、より気候条件の良い時期の開催となる
ことが望ましいと感じた。

